

北京原人

賈 蘭 坡

外 文 出 版 社
北 京

北京原人

1977年 初版 発行	定価 250 円
出版者	外文出版社 (北京阜成門外百万莊)
発行者	中国国際書店 (北京 P.O. Box 399)

取扱店	東方書店(東京) 亜東書店(東京)
	中國書店(福州)(株)内山書店(東京)
	(株)満江紅(東京) 朋友書店(京都)
	(株)猿原書店(東京) 中華書店(東京)

編号：(日) 7050—53

7—J—1358p

00070



北京原人遺跡全景

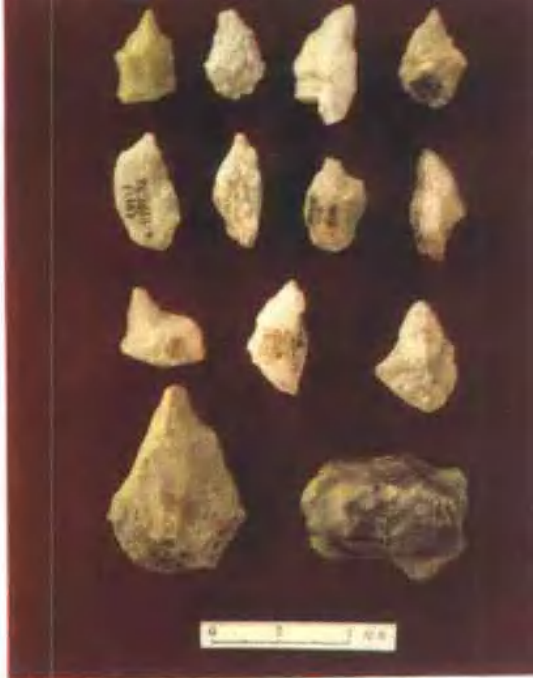


1966年に発見された
北京原人の頭蓋骨



北京原人の歯(上) 上
顎骨(中) 下顎骨(下)

北京原人が製作 使用
した尖頭器とスクレー
パー（搔器・削器）



北京原人が製作した
尖頭器とスクレーパー



北京原人遺跡で発見された焼けた骨

北京原人遺跡で発見された焼けた石



目
次

まえがき	1
北京原人の「家」	7
遺跡の発見と発掘	17
解放前の発掘	20
解放後の再発掘	22
人類進化の過程における北京原人の位置	27
人間はどのようにして生まれたのか	29
北京原人の特徴	35
北京原人の生産用具	41
石器	43
骨角器	46

火の使用は、人類の歴史における一つの里程標である	49
北京原人時代の周口店一帯の自然環境と北京原人の社会生活	57
周口店一帯の自然環境	59
北京原人の狩獵と採集	61
発展する古人類学と考古学の研究	67



北京周口店にある竜骨山は、世界で有名な北京原人の住んでいたところである。この竜骨山で、五十万年〜二十万年以前の北京原人の骨、石器、骨器、火を使用した痕跡が発見された。これらの発見は、人類の起源と発展の研究、および労働が人間を創造したという理論に、科学的な根拠をあたえた。新中国成立後の一九五三年、ここに陳列室が設けられた。一九六一年、國務院によって、この地区は、第一次全国重点文物保护单位と指定され、一九七二年にさらに新しい陳列館が設けられた。

北京原人の住んでいた洞穴の前に立つと、北部と西部にはみどりの山峰がつらなり、山のふもとにはすんだ小川が流れ、東南部には大平野がひらけている。遠い昔、北京原人がこの荒野や原始林で、狩猟をし、採集をし、道具をつくり、労働にはげみ、頑強に大自然とたたかっていた情景がほうふつとして目にうかんでくる。一九二九年十二月二日、ここで、中国の労働者と古人類学者が、最初の完全な北京原人の頭蓋骨を発掘した。

丘を登ると、山頂洞がある。この洞穴のなかから一万年あまり前の山頂洞人の化石が発見された。これまでに、この洞穴から年輪の異なる八体の人類化石（最近の放射性炭素測定によると、「絶対」年代は今から約一万八千三百四十年前）が発見されている。その墓穴で三個の完全な頭骨と体幹骨の一部が発見され、さらに山頂洞のなかから、多くの哺乳動物の化石や骨器、石器

が発見された。そのなかには孔をあけた、獣の歯、貝殻、石珠、礫、魚の骨および溝をほった骨管などの装飾品がみられる。

プロレタリア文化大革命後、北京原人が住んでいた洞穴から西へほど遠くない所に、陳列館が新しく建てられたが、ここでは、北京原人、山頂洞人の資料に重点をおいて、人類の起源と発展の過程を紹介している。

この陳列館で、まず生命の起源と人類の形成を知ることができる。人類が現われる以前、地球上の生物はすでに三十余億年の長い歴史をへている。地球では、無機物の世界から有機物の世界へ、簡単なものから複雑なものへ、無脊椎動物から脊椎動物へ、水生動物から陸生動物へ、卵生から胎生へと移り変わった。多くの科学的資料が証明しているように、人類は脊椎動物の進化発展の基礎の上に誕生したものであり、人類そのものは自然界発展の産物なのである。

この陳列館では、労働が人間を創造したこと、および、人類の起源と発展の歴史を重点的に紹介している。展示品を通じて、人類の歴史がどのようにして、南方猿人（アウストラロピテクス）から直立猿人（ジャバ人、北京猿人をふくむ）に、さらに現生人類に発展して今日に至ったかがはっきりわかる。またここでは、北京猿人の生活や道具の製作、火の使用などの模様をくわしく紹介している。生産労働の社会性によって、猿人はだんだんと人間に変わり、実践によつ

て、その主観的能動性をたえず発展、向上させてきたのである。

最後の部分に展示されているのは、解放後における古脊椎動物学や古人類学の発展とそのおさめた成果である。この中には多くの新しい発見が見られる。これらの新発見は、人類史、生物史を研究するうえで多くの重要な資料を提供している。

北京原人の「家」

